

厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）
医療安全地域連携加算等による医療経済・医療安全上の影響の検証と
効率的かつ効果的な体制構築に向けた研究

分担研究報告書

医学部附属大学病院以外の特定機能病院におけるピアレビューの実態と課題

研究分担者 水野 篤 学校法人聖路加国際大学・
聖路加国際病院循環器内科・医幹

研究要旨

（背景）平成 29 年の医療法改正で追加された特定機能病院間のピアレビューと、平成 30 年に新設された「医療安全対策地域連携加算」により、医療機関間の医療安全の連携が可能となった。しかし、国立大学と私立大学では別々の組織によりピアレビューのマネジメントが行われており、それぞれの実情について評価が必要である。

（目的）本分担研究課題では、日本私立大学協会が行うピアレビューのうち、医学部附属大学病院以外の私立大学協会の特定機能病院を中心として聖路加国際病院と静岡県立静岡がんセンターのピアレビューの実態・課題について探索的に調査する。また、ピアレビューにおいて障壁の一つとなる病院間距離についても評価を行う。

（方法）①自施設におけるピアレビューの内容を再評価する②実際のピアレビューにおける物理的移動コストを検討するため、GIS を用いた可視化と移動距離の計算を行った。

（結果と考察）私立大学協会で行っているピアレビューの内容は医学部附属大学病院以外の私立大学協会の特定機能病院においても有効性が高いが、客観的な評価指標は提示が困難であった。また運営上、煩雑なところもあり、移動のコストもかかることを考慮し、どのようにペアを作成するかも重要である。今後、より効率的かつ効果的なピアレビューの在り方について検討する必要がある。

研究協力者

飯島久子 静岡県立静岡がんセンター
RMC 室 参与

施設状況・課題を探索的に調査することを目的としている。

A. 研究目的

本研究は、医療安全の観点から、特定機能病院として指定されている国立大学病院を除く日本私立大学協会がマネジメントする施設の中で、医学部附属大学病院以外の特定機能病院におけるピアレビュー実

B. 研究方法

- 2023年11月に聖路加国際病院および静岡県立静岡がんセンターにおける医療安全チームにメールでアンケートフォームを送付し、ピアレビューの実態を調査した。
- 医学部附属病院群とその他の私立大学病院群を対象に、地理的な位置関

係と、これらのピアレビューが一体化した場合の移動距離を評価した。厚生労働省のウェブサイトから取得した特定機能病院として承認を受けている医療機関一覧（88施設）を用い、国立大学病院群と私立大学病院群に分類。郵便番号の緯度・経度情報は日本郵便の公式ウェブサイト（<https://www.post.japanpost.jp/zipcode/download.htm>）から取得し、それを基にRのleafletおよびhtmlwidgetsライブラリを使用して地理的分析を実施した。

C. 研究結果

聖路加国際病院・静岡がんセンターにおけるピアレビューの調査結果は、資料1「聖路加ピアレビューインタビュー内容」、資料2「静岡がんセンターピアレビューインタビュー内容」、資料3「議事進行予定表」に記載した。

両施設の共通点として「自己チェックシートの煩雑さ」、医療安全に取り組む必要性を再認識するなど「ピアレビュー自体の自覚される有効性」は共通していた。ともに施設長への報告はあるが、実際の現場の医療従事者がピアレビュー自体を認識しているかどうかについては両施設ともほとんど認識していないのではないかとのことであった。しかし、客観的に何をもって効果があったとするかについては両施設とも何らかの明確な回答を得ることは難しかった。

両施設とも日本私立大学協会のピアレビューのマネジメント下にあるが、医学部附属施設との違いは私立の単一の病院ではどうしても施設規模が小さくなることや、医学生がいないことなどがあげられる。

また聖路加国際病院と静岡がんセンターの違いとして、事務職員に関して、静岡がんセンターは県職員のためローテーションが必要で、事務職員の引継ぎの際の情報不足等があげられた。そして公立病院ということもあり、ピアレビューの相手の病院へ訪問する際にお菓子などの手土産を持ってゆくことも、持ってくることも適切ではないという点も挙げられた。

特定機能病院の分布に関しては、私立大学群は37施設、国立大学病院群は51施設と同定され、それぞれの病院の位置情報は資料4の通り。私立大学病院群は主要都市に集中している一方で、国立大学病院群はより全国に均一に分布している。病院間での移動距離に関しては、ピアレビューを全施設で実施する場合、国立大学病院群では平均534km、私立大学病院群では平均297kmの移動が必要となり、これらの病院間の区分をなくした場合には平均455kmの移動が必要となる（全ての特定機能病院88施設の間で考えられる全ての組み合わせ、88×87通りの組み合わせにおいて、2施設間の直線距離を測定して、平均を算出）。

D. 考察

ピアレビューは医療安全に対して重要な影響を与え、経験豊富な施設では文化醸成にも寄与する可能性はあるが、客観的な評価指標の提示は困難であった。自己チェックシートの記入とピアレビュー実施の両側面から負担は大きいこと、とくにピアレビュー時における移動距離を考慮すると、より効率的なピアレビューの実施方法について、検討する必要がある。ピアレビューの組合せについては、毎年、できるだけ新たな施設との組合せとなっているが（事

務局の負担となっている可能性有り)、同じ施設で継続してペアを組む場合と、新たなペアを組む場合との効果の差などについてはまだ議論されておらず、今後の検証が必要である。

E. 結論

本分担研究において、私立大学協会で行っているピアレビューの内容は医学部附属大学病院以外の私立大学協会の特定機能病院においても有効性が高いが、ピアレビュー効果の測定の難しさ、運営上の課題が示唆された。また、移動コストも考慮した効率的・効果的な運用モデルの開発が求められる。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

G. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし